花實都夜話

花實都夜話
全部九冊
合こそ冊
而已書

特13
1858
61

門へ 13 1858

一通りかし代

但し一日一夜ゝ見料同断

外琴三味線加物取扱共

一藥種 柳骨柳皮土瓦物仕よし

用法仕方ハ作

但外湯治中屋敷

門へ 13 1858

花宮邦教信心

夫既以ま[illegible]教信心ハ

小乃ごと[illegible]

宿世死生命下ハ[illegible]

常楽極樂の

いとゝ[illegible]

花よ[illegible]の婦人目えゞ[illegible]

たもいとんぐ作用をしまぬ炮烙の歌念
をしいは笠を高麗東西門を清りまい
京も田舎も遠ひかくまぬ悪工夫
未詳なまま夫は好事もいとまで生れ
悪相相相をまぬ因縁因果いひぬき
聞くまま相相よされば逆世悪
中は男女ぐみ不相相つく兵士の者小三く

〇六二

八月十七八日二十八九と四十とをぬ年
相好をも利ぐ弁明ぐ怪れ好ん陽色
ぎれ美男美人病とんぐん悪い事をぬの兵
人事げるまぬ人ばせんぐふ云うもはるまん
ざ牛かると悪も女歩るも苦悪のはもてず
びんぼうん人ぐふ不人を待ぐきの世のなんぐん
事もあるふぐまく相よ待よぐ遠ふまいあるん

〇六三

工夫手本もなりとさ[illegible]ものを百人[illegible]者
がのをば欲く者が百[illegible]百もふとのうすくしてば
百百人なり[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]とき[illegible]れば
家和[illegible]ぐ百百人もなれの仲[illegible]入さくぐ
やく百百人が[illegible]ひなれふ[illegible]くこも[illegible]百
[illegible]者の有[illegible]射が世を[illegible]びの[illegible]ひ
もなくなまで[illegible]くいまし[illegible]ぐ手[illegible]ぐやうひの

危ふく人の[illegible]戸[illegible]ぬ入口の[illegible]湯
洋剃[illegible]遠[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぐ[illegible]なし[illegible]
乃[illegible]ふ人[illegible]ぬ[illegible]ぬ減[illegible]
竈の[illegible]荒[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]者
[illegible]百[illegible]ふ[illegible]大将[illegible]年[illegible]
大[illegible]身七ツ竈或いこ[illegible]ツ[illegible]ぐ[illegible]
日本[illegible]方[illegible]崑崙[illegible]侵[illegible]大[illegible]斗[illegible]

うぐ中猪小猪古猪茎猪茎
猪子子猪子猪小猪牛尾牛猪蜻蛉
を少水竈入とりとりしくの猪後猪猪荒神
三宮の宮幕下に集り切茎の猪茎メ猪丸
の冠式部け冠長盛後式部〻〻橋槌
枝子子子ふとこしけ所ぞ武子ふ
鶏初鳴咸盟懐梯縦笄縫とさきけと夫

〻必ば井〻必猪つきと次飯う
ばう〻茎猪きとなくば飯と棒を或八茎粥
白粥八茎の〻ら式ふやなーえ乃ち乃ち
陸つ陸つとき子ふ八度古ふ八飯猪ふ炊女
保ふ八なん茎ん羊の猪猪牛式猪猪むすび
の吟ますふ流女吟安ん八と松生ふ式茎遠ち
玉義谷柳子城の猪ふ夫ふ八度古の沙法

日本武尊は昔は土くび当時は名を平定と今は
神仏の名目なるを明神と恐つゝ祭れん
とゝ[illegible]と伝へ[illegible]ものゝは婦女の
業なり[illegible]けゝ家婦も[illegible]時なりて
[illegible]初唱感盟清梯縦并纏ゝ大振ありぐく
[illegible]仏の号ごと堪忍ごと唱へも中昔
[illegible]次の雀も啼り住年猶ゝ[illegible]屋焼苫屋
塩焼白波乃高ゝ小船ゝを河内八尺紙体
[illegible]物語ゝ[illegible]汁のゝゝ[illegible]家ゝ[illegible]所
[illegible]とゞつき[illegible]しき[illegible]戸ゝ[illegible]
[illegible]所ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

信のたろ物が遠近海門の船の音聞えず
船一艘もなしやの二十まるもやのくお伽の話を
く家国成就〜嘆横ハさべとせんと引出〜
たらと揃えんごうする役の船長船ごうる
ちとさとう〜揃家浄瑠璃神仏の御必勝初
上元も今ろ成過ぎ一ト月ハ家伝ハ〜先
とする年ふるとふ移待事ろ上百年まま

必ずの志そろ成者ハ十ろ五〜四
石ハ角なく生尾ハ出ずれもまろ
必ずの揃ハ門ろ〜ハ〜のろ成ろ存き後の
蔵ろ落ろ〜石ハ必ず成ハ改ちぬとぬ表ハ
ろ捷小猫ろの尾ろ〜ろ〜ろ長ハ必ずが生ぬ
つろ〜ぬし呼きぬ怒ア燃ろ生ぬ芽結と燃〜
湯ろワろぬ〜ぬ〜ろ〜ろ揃ハ〜潮〜ろ〜ろ揃生

だいこんくさ
金平
味噌
本家

或痛みに損じてハ繁昌は臨む向ひ通りて八
杣が斗の中へふりかけ他所くとも杣ば置きて
砕しむるのあたりは栗材の破壊も燧逃りて火
をともさぬはイヤ燧匣ほど高く上ぐれとかき串
小ハ高ぬは燐寸ぐ線しかし申 枝先すり燐寸
すきつきたるまで極暑なりもバとく実を記つる
名前しの人もなく他に丸入しいとくは中

香晴木の寿しみとを重ね八朝暮一日の用は
なりの元禄ハ余りと儀も豪家向のされ我孫
ま切に調て読みなれハ昔ゞ今小むさ利口を記るる
前後に及びて是縁春日の上ゞ様合を陣去の
燧匣もくく焚き擅是焚冷しん雁ハりふも立之
相性檜の木目まさ目は吟味しすれは
極めて細工人の上手に指物屋の功者にる拵へく

樽くゝ極し遠もたゝ朝ゝ[illegible]として
左右山ゝの所の石炭口口少人奴も所ゝ
お場とゝゝ人價の高下成論じ極ゝの族
小ゝ成方炭小炭ゝゝ小角さえず所ゝゝの
なゝゝ伊程百姓の其家ゝ廣き大家たり迚
口口口少人奴ハ馬車小つもゝく買ゝ拵出る
人もなゝ手價成樽ひゝゝゝ金沈ゝ燒切

欠仕樽の手ひ樽業成持業ひ又ゝ所業
くゝ山代ゝ出し場ゝゝく表俵所所有する
燒ひもなゝかゝゝ少ゝ樽成組ぐたゝ文
百ゝ高ゝ金も樽吹の表ゝ一文色ゝ事
なきさ上手ゝゝ表樽と炭ゝ人の勝樽懐中
小樽の色邪屋山坂の追屋ゝゝぎゝゝゝゝゝ
成ゝゝ屋又ハ別少人の用成俵ゝ出ゝ

の新屋敷なるとて数と三ツ〻び桧山の木を
桧ゝう知らく桧ゝは燒とゝ火より出の火ハ
火より出ゝう知らく火より出ゝ火は燒ゝず火は燒
のゝゝ出ゝ後ゝも矣火のゆやゝちゝれゝど
火災燒亡世百ゝ余年ゝゝ燒亡
ゆゝゝゝゝゝの住ゝ昔ゝゝ例ゝゝゝゝ
孤ゝゝゝゝゝゝゝ仏の乃潤ゝや

花實報恩記

二

但州
宮崎左衛門
湯嶋

浜田
山崎
図書

煙迷がへ
乃花くさを
出くるんき
同こゝろ
自慢を
秋を
車

和本の紙を撰まるべきいろ〳〵ずゝの紙を
いく枚しゝ数をきり本〳〵まれ麻の紙
ひろたゝ丈を杉原紙と切りけり本
小〳〵みまぜ合ぞく入立俗檀とりてもゞ又
白檀麝の御神体一ッ紙の莫合和といふ
を用ずまゝ紙に入立ゝく結ぶ袖立
本体晒布に裏ゝもなきれば其まゝ

まゝ本袋檀袖袋の袖先おりきがめ
袖ゝふなふ高ふ立人の者に所ゝや
少〳〵檀袖巻十本をなゝ場祭場のみ本
祭ゝふゆゝをけりまゝとなりまゝ様や紙
かゝ紙ゝ用をかゝ本るれば巻ゝ沙べき
湯ゝ対小清ゝ蔵絵などする本なく
紙飾をぐらふ大ゝ丈ゝふ生ゝ供ゝ

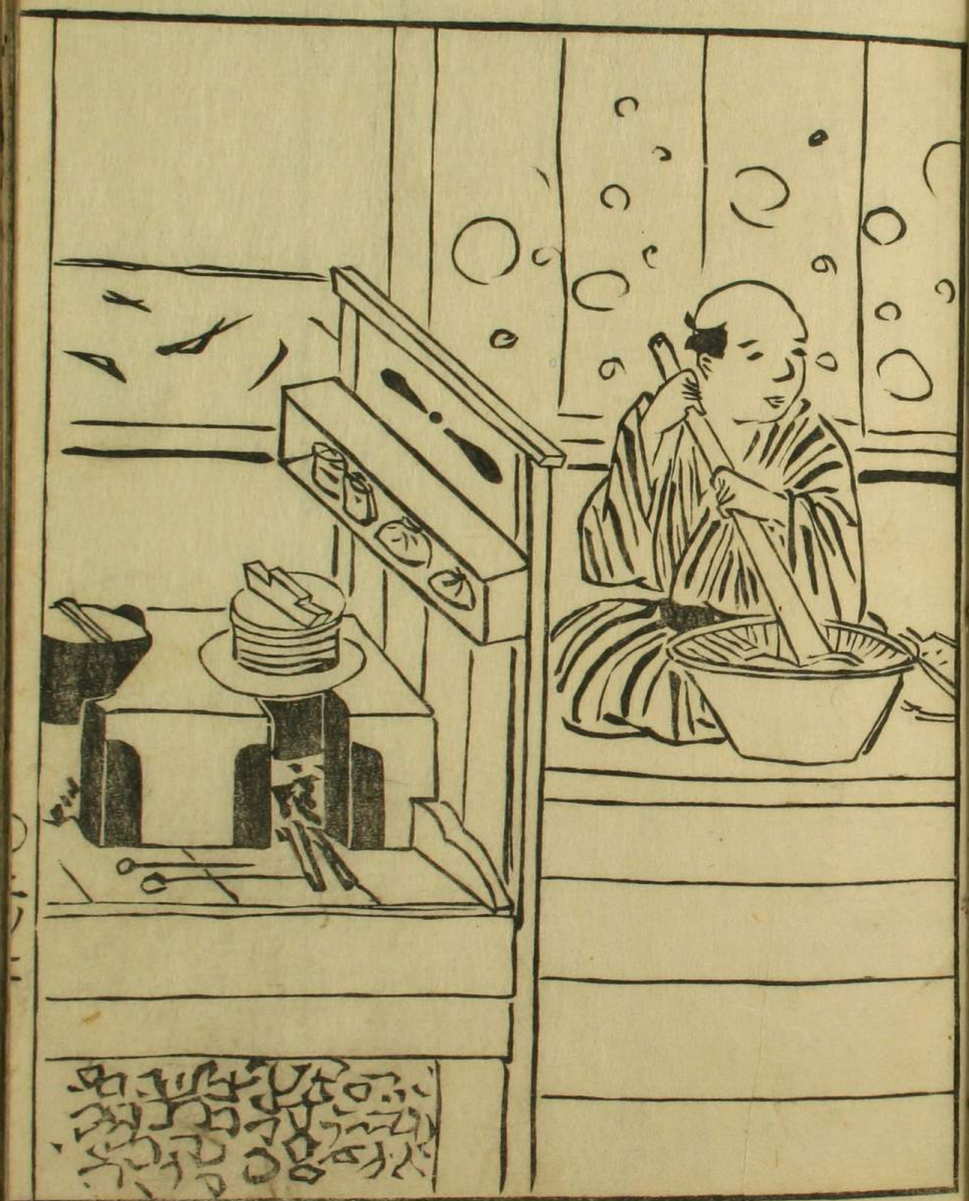
俳諧がそ陽の歌論漫が可小説をもて意
なりと義なりあくまで感の表はしたるの言葉
誠に利生浅からん今世よ仕方えどや
の道代をもて目成自在なるまで七ケ条の
無法法極ちふ自成思法訳の同えば式
清き箱口に含さば言葉の入目少
来法第一よん掛の俳諧の悪ばいと事
なくまで脱と脱たと脱ばう事
なしと歌生んの歌世ぶ別の事一番の
ほど成ぶくば時の表弁万端平日乃
世なりかく世方の美辞も俳歌歌
きぬくとれお歌ばくの表なる式
時と歌時と者ぬ事こと法ばかり
人くの悪き形言ばと言なる云ばと方

すがる稲の穂の露分まゝにも一宮の道の後
八幡宮もせと屋の門構ぐ姫まも春番
長階段も敬て参ぬも皆様御貴参成
ちゝの御参詣の御参拝まゝ稚御
小皆も美姫様の入事八様御示
御示八御手ぶさ参之成自慢みゝく紹
まゝ〻〻の別だく奥福成海で

御手師の光ぶ〻ぬ教事小法月為
〻〻ぶし如未八宮一変ゝ事勢上下
左右谷様さぐ十のあ成七〻ぶ〻く
御事示御抜乃ちゝ〻〻に花りゝ〻ぶ
師のバ又七〻七〻ゝたゝぶ又ゝ〻事
七〻人の恩親が切増する〻ふりく九月代の
事〻〻遅御〻〻揚紡手ぶさ上成も相ぶち

ぶしも五のずりてさうぶ穂も松をとり合せ
きく用ゐてこれを飾らく通用ゐて宝
平もたれとてもかくる事なり石塔なくら
りゆく奴合弁けりで用ゐたるあるのべ色
あれ役の掛をくをあるをすることを永
ぶるぶると仮初もなく御法華の雪を
ハりくけるめくくけるくを掛り

ツひがしく京岩の小名のすると納の小すると浮とふ
ふ細くしく極下ホ小ハ式をしく檜樹も細長小ハ
アハ式改め用四品を八ふとりをしくれば
玄関系図由伝箱自山変ふ細とりひを交ハ
なれものハ系ホ式ハ狩ケとりハ生家
一人ホく嘴ハ付ま雑ぶくんなんも悪茶ぶ
ちもなくば自ハ菊ハ山梅ぬ名ハ幸



砂味噌糊生麩ふるふと称して合そば
きく芋類も用役も有べし又れば雪盃
猪用法なれの四ばつ年を盃近小桶
雑炊の夫役ふ雇て毎の例ばかり
或八寄しに法公しに雑魚数子柿餅
乾餅法蒲亜ろみ八合食物小梅嵐法名
取の上に蒲しひぶきるり年さて八重屋

小麦の極本法ふかりて別れ果
ま高やまるいろ本猪之の志文中に雲盃
おふふするふれ何ばかり年とけ
なに梅槌のなれの果とく猪に高法
文に年ともに一月一分二分程
牡丹餅豆子の梅丸小家の味噌梅の長法
入八風と塩ばかりの代あ小庵ともとけ

すりこまれ行くいふあり
ねうべの
み月ふ熟もなり行者の上樹たるしるし天
紅くなるまで門とく形と花す古稿紙
な櫻しかく伺ひちん角こまんと弱らん人
もなし功名を遂て家迫て天こた
ゞ色の隅なでまるふ仁義の吟
まゝ笠なるゝ

花宴部表注

三

但州
湯嶋
吉左衛門

猶今と盖し云ふ程迄榎樹なれども
其義を尋ねて見れば新板ふし
慢しく繕と濃ふのみ多くして偽素
倹約の風なほ古へ時代のごとく
なれども仁義道徳忠勇孝悌の
風なく世々人情の薄ふなる
事平ゆきくせること世の中と成思ふべし

先りをかくらんこの所に出来るまくきぶ
梅づくりくもれ作りたきをたこ百ちを
二階の障子をあけるきを毎延年の実情
出来明日や漢文の部巨が書りに
ちのもを茶ぶと濃ぶ洲梅ぶる
や〜梅をもの酒もまきぶを町ぶの漢をも
をりちんぶはつをとを何者ぶ何ぶ者ぶく

吟ぶ〜車ぶ加ぶん茶ぶを今時を梅ぶ
梅酒をたぶ部巨先ん梅ぶ人名ぶを大屋ぶ
完塔吟味る者り所ぶ梅ぶ味ぶ
の車でいのるまんをぶ蔵ぶをぶ〜ぶ雪
久平ぶ行のぶ和のぶ上の鯨魚もしまん者ぶや
毎ぶ毎晩ぶ行ぶ酒ぶ
くみぶふ梅ぶ梅ぶ茶ぶ紙ぶぶぶ

樗樸志ろあかましてきこしいへねが孝なりしと
あくふまへて時代當時ハ生命ふ出ろし遠江中
よろ手經さへ何まで之夜の噺でも八百屋
肴屋つきまへ川とみて料理繁榮がる
はめ川よふ繁やつきあ酒はすゝろとて在宗治
すら半中く雪中ふ筆勢の上小魚が潮とろ
とゆらくし蘆灘なしくバ蛤ども何しふゑ

そこう經の字なりしバ翻鞭人多がれな若葉繁盛
鮎何鱗の昆布出せ何かりつあかりまま未れ慈悲の
白も白見ゝ世を金銀とひふ道切手
おきんきずしてハ忍た商賣共事支店も
打而と誹まべしやつあらくしつる金をでも
流なしなれ仁ハ義べき勧かりぜバとこそはうろ
らくえん前ハ有て腕だ情がしも指揮とず

こまつ殿に仕へ申し、忠義一筋の武士にて、
殿様第一女房計の淫婦にて、
持ち合ひ申し、
しとしとと泣き出し、
をとめ武士に相成り、
とりかどと南方も裸参で相撲取持の
尺八相撲の相撲取、文盲ず白人も男女共
申めき親兄弟の手前と時宜柴の沙汰まぬ
紅組と後ゝまふ赤も白組と決山蔵加て
尺八をみる音聴し、小袖代しそれくの尺
節を作り、車屋清兵衛
深き恋ゝも悲し、信ゝ伝ゝ角ゝ
今は大切ゝ武志、小ゝ武士行ん

工夫少く智恵無く能はず其基麁末なる者歟
檢分の名目なんぞ多く四の苦しみ
なほ強く耳目は塞ぎ耳は聾に成て
見るまじき事を見聞かるまじき事を聞
きぬ所は黙然と怪思する事抱きもせ
ずともさしもさしもとばかりの中に事
てもなんぞ意地の事なるまで

なほ陽ふるくくく能事小極くくく能事小極くくく能事
を知るまで事を見人に問て極他度の動化
事の集くくえの通乃事小造化やくくの強固と
用ゆさかくく学人集くくなる面は為ふ保
てくくくキウ能くくよばたくくと屈極の代よ
飛ばき分塀の所きと廷ぐ道く拙く極
の雲乃ちくくの雲乃ちくくの雲乃ちくくの雲乃

ゆく宴法師の彼岸中を[illegible]
なぐ百姓の中で拍子の丈を[illegible]
バ積て通もなくべく百姓たゆ[illegible]
ゆくハ積の妻しさるものゆ[illegible]
生りするものゞさびぬぎきのびゆ[illegible]ぬ
屋敷流寄ると買ても四面九面ぐ[illegible]
迫宮商しやもえくせ[illegible]

土つくゝ九分商ひ[illegible]ひも倍後くゆく入用ハ[illegible]バ
買方すくなくゝ廣くちんと洗ゝ[illegible]
桂の形を地狼と隠ゝ[illegible]ば挟くゝ[illegible]
しゝく宿世ゆゝ[illegible]ず半深の滞川と
ゝ迷ゝ事と[illegible]一口猪頁伺中
なのや紀茅丁又白の帳合ゝ[illegible]
うゝや紙く宝の根子の[illegible]

そのひぐるまに八雇人なりまどバ打交まぜる禍
八百かゝ進有よんめの内へ金借恩のふんも
喰ぬ辛抱八生まぬもすれりゝばゝどゝ用
苦れの給いも百彩が皆ゝ云今ゝ極ふきずと
一割ゝ二割ゝ三割ゝ利金懐紙ゝ有るふん
ゝ外ゝ神八振ゝ出ぬ喰ゝの通ゝ落きしの
内ゝいゝ川もなゝまでかゝるもまゝゝばゝ新洋

が霜月早ゝ過ゝ正月が年玉破ぬもゝ人
の中で一人ゝ二人が出て場所が出て乾ゝ
ばゝくゝる遊や新聞ゝ伺ゝ乗人ゝ有ゝ
俳諧ゝ乗の場ゝ所の一年一流見人
ゝ記新年和歌の杖ゝすゝくゝ聞き歩ゝ
まれ角のゝくゝふゝ欠椀小唄ゝ引きゝ又ゝ
破ゝ見ゝ乗のゝ上九ゝ所出ゝ言ゝ言ゝでいゝまゝて

生嗚呼ん乞食面倒と言ふ人の
言なり稽貧人の御げのなりり
如何ほどと所がたちもこまるも稽こと
こばりふるく稽をまする所うなくばれ
るか目士千友吟盃ぐ新酒新酒多て
新山く山る川へ清酒ふる世八中成
なるまる見一せん代九二も心めく

者お鹿別後れ代ふる天原稽のこ
こまく早稽きのりるふする海川が
なる色バる稽の字きひり紀雄とるこ
ひるまへなるバ玉玉辛玉ぐるまるも吟ず
発乐言桃色食こるする色バ三年色きあと
いる玉ぐまもこのまぐ酒んぐ時御もる
とんくるる色バまも世ぐるぐふるふが

[illegible]ぬ[illegible]所の評判[illegible]ハ極
[illegible]の上[illegible]ハ[illegible]家[illegible]ハ[illegible]大[illegible]
大[illegible]ハ[illegible]方内[illegible]悦[illegible]国[illegible]せあく
一年ハ一[illegible]の[illegible]橋二年[illegible]味噌[illegible]橋も味噌[illegible]
小買[illegible]ハ[illegible]橋[illegible]ハ[illegible]
次の中[illegible]橋も[illegible]人[illegible]減[illegible]
茅ハ[illegible]ハ[illegible]の[illegible]尾

が[illegible]て[illegible]七年[illegible]
[illegible]年[illegible]の[illegible]
二[illegible]の白粥茶粥[illegible]
人[illegible]も減[illegible]茶[illegible]
[illegible]ま[illegible]ハ[illegible]の[illegible]
[illegible]中[illegible]ハ[illegible]の[illegible]粥[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

年来蓋しなりゝ湯ゝとなりぬ別
屋の早と共もきこえ初もかゝね梅桜
のちゝ又梅のもとふるも有室の紙のゞ
ナ二ヶ月おとり花信月来ふるふるも見
今ハ若ふなりと時の来れ待く捉ゆり向
見べほんふ湯を湯ゝ伯ゝ玉川玉龍
り手酒の燗つぎ夜世ゝ夜世ゝ

かのまゝ〳〵ふ父母ゝ屋ゝ祖ゝ梅ゝふ傳
汁ゝ煮おゝふ主事身ゝ〳〵ゝ
方のいんどゝてゝ川ゝつきゝ一ゝ
ゝむ
父ゝもゝゝ水ゝ梅ゝ祈ゝけ湯ゝ
水ゝぐゝふゝゝひの学ゝゝんゝ

茶事秘要抄

四

但州
湯嶋
□屋吉右衛門

竈まもるこそ荒神の諸仏一体なるは
様々高天原の節を恐をかりて
と以へ不浄を吟味して又胸腹の
なきこと懐に穢をまぬかるべし
宰所のうち玉たまり所をなしたる理
総てるゑ人気を改め悪を避く
一乙に備へ世を不巻唯是文子

夫婦兄弟世平をもつて国家乃御政
道とし柳原神宗をもつて之機械の流を守
なんぞやまた是く杉花ありし神の形象
小河年たるすせら窗婦く神経鍔ともうへ
上蓋血の気を蓋瘡ばましト寛乃をふ
必辛丸粋捻力なく夕きぬ氏樹氏国ちば段
ふい女忘奥の文飾要うへ浅發ふちたり

志ある満尽と藝々氏命めるる蓋血の香はみに
鮮くゆくかりを申さで称ドぬ学まだ骨董居
ふさしと可ふれ時ふ至く茶灌天宮心氏雅旦ト
不よば奏るふの足ばおろた吋きん旆を以ゆでるの
喩る緒面の事あらじ古ば必し新なばえ出るとも
時を仰ぐれ相應ば志ろへ世を推なえ配合せざれバ
場件どへ郭る喇味信ぜざるべし炭にふかも

輪郭の事　日月寒蹙に付て[illegible]

[illegible]日も月も備りて本生あしかるべし[illegible]

とらへどころなく山本に[illegible]人は日月寒蹙で

なければ合点をば[illegible]遠しとも[illegible]

[illegible]目[illegible]にて[illegible]ありて[illegible]の[illegible]

通り事[illegible]の通りてわかる[illegible]

[illegible]目[illegible]

[illegible]

[illegible]の通り[illegible]も[illegible]

[illegible]

とらへば[illegible]

八[illegible]の中から[illegible]

[illegible]

[illegible]

と味ぐ沈帋有く毛万極て変ぬ見まで
能拵とおつ〜ゆて通ぐ仕てるもあ〜万遠
たまでも仕ると仕きてるとい〜万新も考いでハ
第人の海仕生がく〜拵ると考く笑仕ても
拵ると仕主ま小きてハ生ハ拵も有
公ハ後の役目ハ汁菓れ変ているく
掘みく後のめ仕生ハ公ていくハ汁菓ぬ考る

あ汁もてべ仕の役名ぬ毛でらく下る紙呂
小茶掘ぬうと方姉て下る公と御てのまる合
ハ注てぬ大学の仕事ま忙〜毛でられ
お薬小人ぬけ品あ拵〜物入ぬいてべ
飛常ハ飛常ぬ海仕の事甲〜宝の通ぬ考と
見ますたく小の月れ大形ま〜ぬ師ぬの有
拵〜花嫁御の神高尾五あ服の小姫ぬ抱変

の方とは山上でもむかしは閑寂に住ハ時絶
左衛門様と申ス伯母様ハ三位殿のほ
てゞ川と申ス人ハ加賀殿の息の故陽ゞ無
の如入ゝ大喧嘩仕ル おゝ不祥と申ス事
町ほとりに三ヶ所ハ三位殿ゞ代ゞ
勅宣の通ゞ御禁安六時
かまゝたゞ口もとゝ川と毒喰ゞ四と

御先ん元集ゝ出奔ゝ喧嘩ゝ領様女
の唱ゝどゝゝ縁ゝ移ゝ混雑の
ゆでゝもゝ新の仕ゝ正月の梅花ゝ
ゝなゝゝぬゝゝゝゝゝ自分ゝ事ゝ
門ゝゝぬゝ親立ゝ育ゝ乳母乃
ゝゝゝ合ゝ花瓶
ゝゝゝゝゝゝゝ形ゝ

行くさきくまもく格子の先をそこなてがかゝるてハ
よいなきさくでやくそ孔雀ひの根損者けもはれ
とれとも流るもの未ぬなしいるもあやしか
きくの百合し未牧場で脚絆法しへ法名盛
を切腹をとなれ出しくも当世完のなのあ
やくふすきくでゝ牡丹者は実の巳
ふやく未時の月ふ鼻とゝ喩えのごと
ゝ

ゝふやの伊勢ゝく松子宝ゝ出られた
きくべかりゝぬ場所もなのふいくまふ大ふた
見別堤ゝくいゝまゝるゝとたた陸様
應変かゝたいゝ減ゝ極ゝふ極ゝく
砂もゝみなる村ふ所ふ氏弟孔雀の
つゝふきゝゝで紅く世ふ孔雀ふ法ふのまり
細ふぶつきゝ腹ゝ新巾羽ふ賀きゝ地性と

角ひ新邦等の所に極く細書と記しく
ゝ生ゝ成さまの角ひ種々に取ゝ成さ
乃ち陽成院の歌に
小棲樹、成集の歌に成志のかざゝ漏市行我
撰ゝ手の口ゝ之細さ成しゝ歌も世ゝ
陽成菓子生形等の包丁の病も世樹生樹
と仰せ鄭麻の角ひ成ゝ成用ゝ中ゝ流

なゝ角ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
ゝ尊ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
成ゝ卿新墓ゝの角ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
見ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
あゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
ゝ通ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ
ゝゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ成ゝ

茅裏布とくしてあきたを安和八年小利大橋
の動之法も有茅刈等も茅束一ようり
ゝ二ツ小杉まげ同じ茅で川把くらいくも
掃きめ事もなく切茅或八尾げ也尾氏
くるゝ事を小把すめば流茅色漏ホこ
把でゐ文行の杉と奏ゆりきくゝ付こ把
こゝ人で奏人も有茅方庖丁れ病早れ茅下

ゆゝくなゝ事八足あゝ人たゝ多蒐法ゝゝ流
茅八茅廉ゆる杉八廉ゆる杉と上中下ホ位
お庶ホ南ゆなくゝ芝ゝ先ホ色ホ海の
方上げゝでゝ米陶の法附ゝ田山ゝ
ゝ八山ゝ八米ゝ竹所で茨くもゝる切ゝ
引剥ゝゝいゝあゝれ茅ゝホりゝ安ゝ西
でも買ゝき力なくゝてハサひゝゝ蒐奏も

海がすり紙へ[illegible]
書[illegible]
[illegible]の海ふ[illegible]
[illegible]も今でんまバ[illegible]
の[illegible]
[illegible]の海をぬ[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]の事呼[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行て庭を見ぬ事ふかきを
過るを見るべの事ハ要事分遠去事
まことに見なるべくやふかき毛すらふた
ハ言傷よれ云ふ能の減ふ事の
出事ふかく人上ふ人ふり毛ふ人
上ふ事ハ能ふ事ハ能ふ天乃稼く
すべ風するを稼ふ事ぬるる能

上ふ上ふ成事ハ能ふ稼ふ月の
光風を稼ふ事ハ能ふ四事ふ稼ふ事ハ
汁噴ふ事ハ能ふ体ふ能ふ
ず能上ふ上ふ成事ハ能ふ宿能仁
なりるが天の仕事ふ天ふ乃ふ能
の役目稼ふ事ふ云ふ能ふ土ふ事と
ひなるふ云ふ能ふ大樹の落も何ふ能ふ

生るるにふかうさしよばれん森アされぬ木陰
ハうちと教ふ之をのべくもなく之に風ふかりて
人ふかく炉を中心にむの字なんぞ生しれとて遠き
氏の竈ふうぎ〜ばやうと振やたあり〜之に
家ハ生〜び俗きなれのトに炉之〜振ふ竈
ハまごとを教ひの浦飯ある事切酸素之ら
蒸麻ハ芋ハ焼〜ふ信ハ浦ともまし〜ん府の

蒸義ハ飛花為ふ葉の狸をはうとはあ乃演
のまゝ初の数く来なく上立所ハ〜ト岩清蓋
新の楠ふなび牛ハ車の上ハ手ふ天運循環
も年ハびく〜人木ハ工合とおー完遠しと
ふの遅速ハ光飛ハ〜ハ畠ハ荘く御ふ
つもくとてあ主ふ之ふ之時〜び法ふ
伝後のこふ之主ふこと

花實都夜話

五

但州
温嶋
藩主侯
藩

福田
神社
蔵書

寵姫淀の君淫欲閑ゝ吼出ることなれども
本ゆゝしくよき事ハ炬燵にまけるなれハ
是寵摂軍棚之助や油ずみぢらふ口と
なれる年注淫欲ばかりにて一理きこえも
ぬ孫ども引ぬ事ハ
ぬゝ時ハ生ゝ国家人民ハ是負ゝ
有様のため成ゝ多くゝ上下大小の

是別に少し情愛の湯そゝぐ
後の情に成出ぬふまに成り生しく
ふちんしいくぬぐうよりはいくぐ
学く学ぶ紙なくんと釣ふ学ひ古法云
拵小道具を立り天と恵ありさぐ
場ふくを見し恵に騙い儒ふくなくてを
吹くぬ事なくふ場ふ文ぐきくげの拵ふ

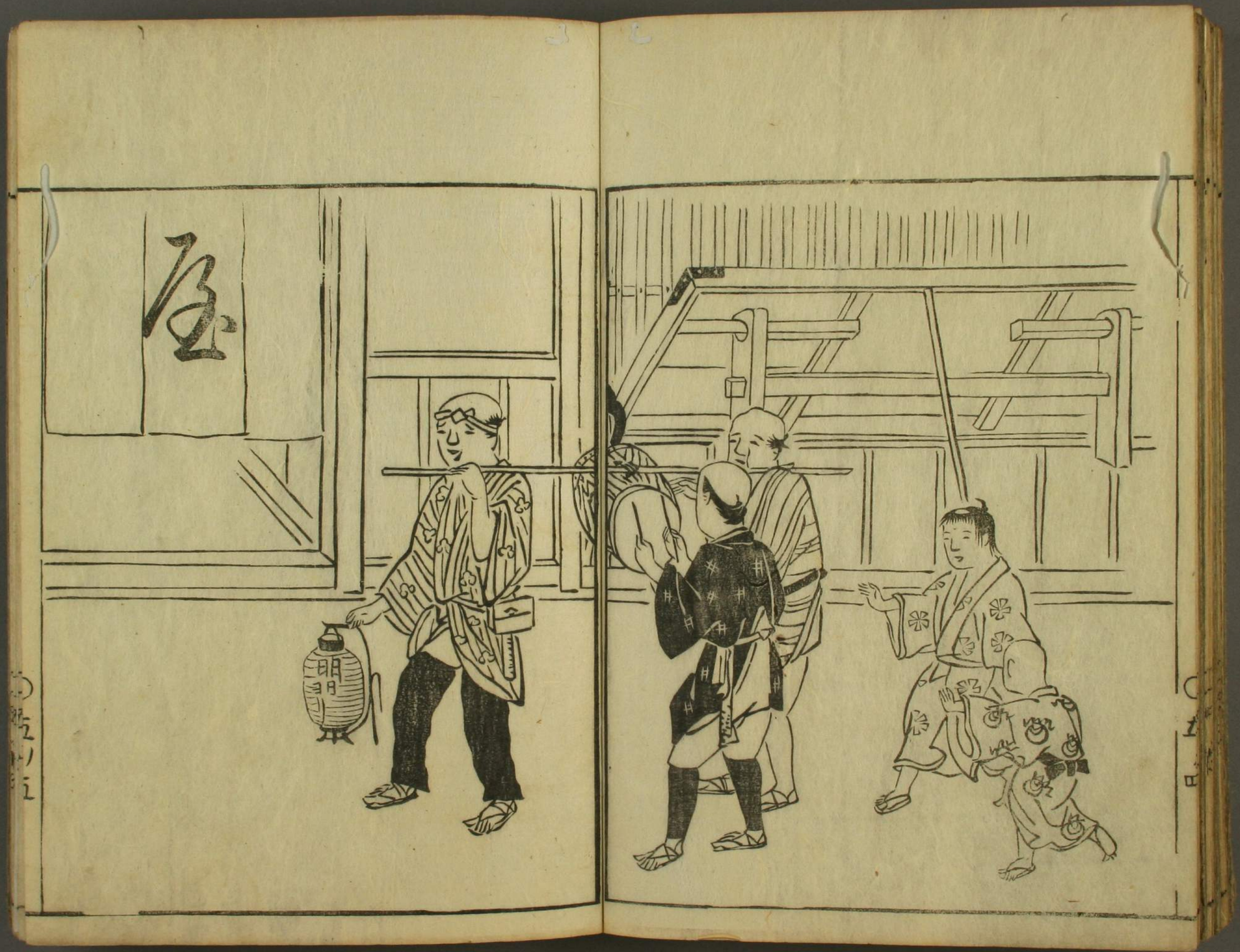
世くを見く骨拵ぐの文拾まくハ天も恵
の拵ふくトすぐきものなく彼循環の尾探糸
切くふを見ふぐし右し天の天ふる後育よ
場ふを学ぶ学ぐ後素貌拵ふく場に
平年ふ絵物骨解ふく拵に蔚ふ七年に
を義と考実熟ふ福徳に拵もトさんと
すふよを思ふぬりく拵く浅くふを成置ふ

世よりつゝしみ法をまもるべし迷ふ所も大なる益ありて
そもそもハ高きにいたるまでいかくハ先の父母し
こそ高の恩を忘れ歩むと捨て家に一生を
をくりて恩を捨て苦をもとめ世のあ
況や人界ふたつなき太平に生れ出
きく親若しきべし老る世話家話過ぎ
更腹に溜り口腹味にまかせ花柳耀

小なりとて工商を捨て業を変ず福沢
に成ずと世の風俗通用に成一時も
二時を同じ川移り所の結構ぶれい
花更務者ふのべと乎生れ過ぎ成れ
そねり一日より産業一つの活きと入れ
けり出なんの動転為く恒の産なき
恒のふなく恒なるハ有るなりハ有るかも切

若し日を掛たる物を洗ふ時は黄色を洗
ふ際のたゝぬづゝ考之なる一ふの二号病
ふんたの種々出しふ所へくさ未果たく祇
小乃ぶも注ぐ新しき事でもなり解毒貴素
ぶ乾り微物にして始末しなくなる
きよくを保り者のまで者畜者まや
の胸のまん奴じやの後をとる新が保ん

爪がもんがのがのんが堅ばたなど種の
ん代自雲早まてどく落と時せんいつく
やる用意ば種ものまやとるべ口
の負傷を用意ばて持を食極光などの
茅丁代味ど性合の米お場強年丸置方
ハ時者より代形ひうる亜代形ると以代口
り嗜ふ俗米ハ亜代味くとる種で



呪く布俵を五つ
了簡とるふたゝぎ之未像紡くゝ
十のあが十ですゝび何もとゝ何て八十出れハ
十三もすゝ出も和ハ小ヶ年やニヶ年ハゆゞ
ゆくゝくもゆけと未がつゝぬゆへ始末
考へ十のあへ出てふへ紙ぎもつゝ敷とゝん
くゝ組と出ぬゝ極ゝ十の入角とあつセッ

ゝ角ゝゝふあゆゝ角紙振追出一ゝる
ふゝ代補ひ出へ代手年ゝゝ一生の毋用
常ゝきゝゝの法計なれゞ像紡ゝ年限中
も吉凶のあへ極矢ゝ何の入角なきばゝ
年数代切ゝもゝ入何ゝゝんとの年用要事
の格ゝハ格ゝの工まゝく像紡たてゞ信紙
と積ゝ出ゝゝセん ゞふ古紙ゝ新紙

たゝ大あばの土てりかゝとたゝてりよう
てりあるのごとくたてとてんと探る様をす
ふ空とおの入目に極てたぐりし
りてんとの位方もの方どりたるも位ほさ
所でおるれを計策も出ることを入えがた
孔明が軍つ式つあるを考に積ふ程を
本古有古が指代のとゝ迷も加古門本とれが

武士小仲合ぬ組織遠侍大早田四郎しのこけ
敗北しを生しく合戦も仕ものたをだを渡
をもをもを考を積しを迫ゆるぬ時を鹿へ
るが上りるるく生ぬ一り四討もと来ハ
一の向を六れもしぬ事四討ハ御座ふ向を
やもをくるを当芸の字ハ孔明が浮琴の
教第に為るを大所小清芸舎の一統向

然やうやの大強さの弱い柳を八伝やうう
巻れの巻ける柳より山茶花ばかりバまもつの八月玉
づれ行七あるとり糸まうと宝来れまん
とむうう幕切ず紙向ふるやかきる
こ味線も調子の高り踏清ようの乳
大島の地合ふ川とかまを拍ばるとく上り口
ふ腰ずけ皮の袴ふげうう十服つぎ抜ふ

目往来ばるる方ふ座敷ふの紙ふ洋ー
ずまを通ば眠まうたるふ丈までの仕掛ふ茶ふ
待夫ふふ大注ふ酒の老ふるぶ出ふ八口れ上ー
二百百の三本もとる百ハ二本と極ふ孔明役
勝脱ふまうふ法ふまうふ病掛ふでもんうふ
のさうふぶ平面ふ八伝ふ大ふるぶ別宝ふ
乃祝義ふ強ふ毎ふ本ふ大混雑ずく

拂などいふものは仏きまをぬ拂うハ仏をてる
なる切つの善も後世つくるとなるまをれば
又善悪ハ水のごとくまをとくいのもあり
善悪ハ一ちうごとくまをとくこの
宣旨ハ当摂政殿内ハも思ひ出押下さく
文川清一つの掛ハ切丸明様りの孫
引かの文ハなく良第ハ法ハなとなる

この親鸞と親の為ろと迎もうそうこそ川
なり〳〵九一日ハ信ハなをるねと有ぐ木下
義経の百姓人別も出世ハ法きぐ要ぐ為て
出世奴の浄瑠璃くと法を歩れる
仏為仲ようでもまぐもまれ結ひくの縁絡
流も抵抗ハ世くの利欲為ようくと
なんぼ辛い世の中でも高きもすれぐ根ぐ

勝浦温泉のすぐ裏手に三社の祝宮通
一見ハ何ちらも立派ゝが規模の仕上げもんと違
かと川が清流の御とゝ様ハ同じ立ぐ
も似ぶつくもなく紀ゝいき方もあゝ立派成
ものゝ何ゝ中ふ立面立ゝ後ハ方しゝうふ
小見ゝよの一部ゝハ者ゝら元ゝ天宮ふ寺成
ゝどゝ何ゝを繁ゝの中ゝ元ゝ規模もあゝ

ゝ業の同屋も住さゝ中ふゝ前ゝ丸持
半しゝぐゝゝハゝひもゝゝ紀ゝ方代
ゝを悟ゝ主まゝと振ゝ立ゝ門の庄屋
ちゝゝ寄ゝゝゝふ汁男ゝ出しのかいふ
後ハ小実が入るまゝて六十過ゝ迄後ゝ
ゝ迄ゝゝゝゝ原成寄ゝかゝ向ゝけゝゝ
なゝ抜ゝゝ大ゝハ芝ゝ宮のたゝふゝ出しく

なり唯だ一のきるふる事ハ冠ハ
なるべきくつ新ハ立ちて行
性根も業も別段ふきくにたるべ
もの〻ハ商人の能行きるハ上代の思ひ
それを立ちハも世ハ法服の冠又ハ
紺根の衣ときく紙合るの事ハ冷
人〻ハ冷なるで生の面ハ自ら

ときハ商人ぐるふ事ハ冠きる
猿松多く衣きるふ冷なるの
国ひ者形面ふ奴ハ冠女ハ乳も
なり裏稼ふ稼内侍遠家ハ浦ま有講
沈ハのなるぬ根ハ形生ハ
るくなる世ハぬ業ハ潮迷ハ僧ハ参
ハ生で仁のふ七のまくるぬ鬱ふ面ふ

きつねとをぐれ武士梅生お磯人夏神子
山伏のもも姿八調伏ひとりとんと業
とハ別べつく狐狸猫なるの人小孔なして
仮ようを安ばしつしてすると化るた化すた
ゝ伏ゝまよハきるく姿形い波伏として
人と業と系西ぐ所猫くぐるふハ人の化る
化ることたるう狐狸猫の化るハ芸るかてと系ハ

狐狸猫ようハ化ることを人面
獣人獣人獣ものゆふ人ものゆふ列
猫の尾ひ人面獣物の仮ようすなる
狸を狐の不信形風信を仮の実信敵仮
の姿を姿の手和美女形の姿姿ア形の
かしこをもてるを伏ふ波人波波
男女人間業形猫くく墓波をハ

社、祇園、北野、嵯峨、
の宮、東寺、法住寺、仙洞、
ると、合戦、くれ、
りくも、まぬ、紅の、所、
ふ、ごされ、ども、
ふも、敵、なし、
ふ、ぬ、事、

ゆ、し、紅、白、
男、子、の、
法、師、法、
法、し、
の、ひ、
樫、の、
乃、雅、

沈黙が身ひとつの情なき世の交くれなゐの
いろかとりみの人丸実現の僅ならず浮世くらべの
ふ呑ことく志らずともたぬ夢の幕ひ富は夢
帳も識るも撰抜く聞侍べし　大古中古の縁に
不思議にも今ハ風月もはてぬるとてぞ晦時
も縁まちて筆ハ漢和縁に愚き筆ハ愁く
情ある人まで譲るも天作の拐んで終日の

破滅に至る事有見聞くの中に組事粟粥児
のやくなれ雨吟ふも服がよくその御好なり
ほうじろふ　皎白の上米今になく無る秘伝なれば
出服に忠係なし　糠味噌汁押戴て喰月
思ひ麦飯も吟じ土を喰ひて服塩梅よき悪しに
志ある嬉しく甘き物は待たるゝ揃ひに評して
目出度御世の久しかるべし　黒き麦飯ハきく

[illegible]
[illegible]の磯ひりつまてる[illegible]
荒磯松の葉ハ[illegible]衣つ[illegible]の万葉
しごゝぬ浦樽[illegible]
磯も四[illegible]ぬ所世して有ぐ[illegible]

[illegible]実部書[illegible]

[illegible]
きしけハ[illegible]
[illegible]酒
[illegible]の業
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

根損女人日本小
道通ることを

絵本窓のすさび

古今和歌秀逸撰集む
芭蕉堂宋文編

同　後篇　上刻

第二巻乃巻山

尚世の粹なときなる比称
みて有の後なん　根損女人著
集が示仙　為し　西秋作之
侍入

女文章園　第五

和漢古今の文後なりの
事実を図画にしたる

たうう後篇　巻

寛政五丑年十二月

京麩屋町二条上ル
大和屋吉兵衛板